

今月の論語

朋友しはしはすれば
斯に疎んぜらる

友達に対してしつこくしすぎると嫌われる。

今月の帰宅放送は、東原岸中央校9年の江上優菜さんです



多久市郷土資料館長 藤井伸幸

○如来は真理に到達し、修行を完成した者を称します。
○白毫は白い毛で光明を放ちます。
○施無畏印は畏れなくともよいという印です。
○銘の伊豫國國分寺は、現在の愛媛県今治市にあります。

石を彫り窪めて舟型状の龕(仏像を安置する部屋)を設けています。坐像下部と蓮華台は龕の前方に出ています。像上部に円形の頭光があり、頭部は螺髪で、額に白毫があります。右手は施無畏印とし、左手に蓋のある薬壺を持っています。像下部の裾(スカート状の下衣)は、ほぼ左右対称です。薬師如来は病苦を除去し、疾病を治癒して寿命を延ばすとされます。

銘「四国第五拾九番 本尊薬師如来 伊豫國國分寺」

薬師如来坐像

野の仏ギャラリー ②③

南多久町大字長尾

連載

教育長コラム

ちよっとい話



新しい年度が始まる

10年前の4月、東日本大震災の被災地では入学式どころではなかった。

ある市では、教育長を含む教育委員会事務局職員の殆どが津波の犠牲に。県から派遣された教育長が、市長に早期の学校再開を申し出た。そのことを市長が7年経った回顧の中で「当時は、遺体の対応、行方不明者の確認、避難所運営など課題山積だった。それどころか、何て甘いことを、と激怒した」と、お話しされた。ところが、校舎の隅や建物を間借りして学校を再開すると、日に日に子どもたちが元氣を取り戻した。その姿を目の当たりにして、「学校ってこんなに大切なのかと実感させられた」とも回顧された。多くの方々で御祝いしたいけれども、今年も入場数を制限したり、映像を配信したりして行う入学式や始業式となった。しかし、登校できる当たり前の日常に感謝して、新しい年を始めよう。小中一貫校となった年に入学した児童が、4月から9年生となる集大成の年となる。

教育長 田原優子

市民文芸

◆祖母吾の居るを喜びくれる孫の
あるがこの世の幸せとせむ
川浪 信子

◆勇気さえ無くしなければ何度でも
僕の未来は約束される
野崎 隆幸

◆嫁ぐ日に持たせてくれし訪問着
みるたび偲ぶ母の苦労を
梶原恵美子

◆老いたりと云えどコロナと戦わん
勝ち鬨上げる夢に目が覚む
浦野 嘉恵

◆安野光雅 汚れなき童画描きつつ
後に戻れぬ文明嘆く
尾形 節子

◆日溜りの畦の足元犬ふぐり
中嶋 清子

◆海原へそそぐ川音春の風
富樫 明美

◆ランドセル制服そろへ新入児
本村 則子

◆抱き上げし赤児春日の匂ひして
おおやはな
武富 律子

◆沢音の響きに目覚め露の臺
武富 律子

◆啓蟄に 躍動感を感じとる
古井のぶこ

◆一行にたつぷり愛のこもるメモ
大谷 和

◆進むべき道誤った交叉点
田代まつこ

◆ブーケトス母がキャッチを
するなんて
三塩不二子

◆老い進む立つも座るもドッコイシヨ
松下 修